

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
(TEL) 6765-8904  
(FAX) 6765-8905

## 投票に行つて府政を変えよう

3月3日、大教組・大障教も参加する明るい民主大阪府政をつくる会と大阪市をよくする会は、大阪市中央公会堂で「春をよぶ府民のつどい」を開催しました。

大阪維新の会は、住民のくらしや教育・福祉を切り捨てる一方で、大型開発と一体のカジノ誘致に突きすすみ、「密約」ですすめようとした大阪市を廃止・分割する「大阪都」構想が行き詰まれば「出直しダブル選」を行なうと表明しました。こんな維新政治に共同の力で終止符を打ち、誰もが安心して生活できる大阪をつくろうと、1千人以上があつまり、決意を固めました。

# 大義なき大阪府知事・大阪市長「出直しダブル選挙」

## 大阪都「構想」・カジノNO！ 誰もが安心して生活できる大阪をつくろう

部内  
資料



各方面からのあいさつ

主催者あいさつをおこなった  
た明るい会の荒田事務局長は、

### 一片の大義もない「出直しダブル選」

4月の統一地方選は大阪の行く末を決める重要な選挙で、「府民のための大阪を取り戻す大きなチャンスだ」と述べ、維新がおこなう「出直しダブル選」には「一片の大義もない」と厳しく批判しました。また、公明党との「密約」暴露劇を露端とする一連の動きが示したのは、「裏取引でしか事をすすめられない維新政治と府民・市民との深い矛盾」と指摘しました。維新政治を行き詰まりに追い込んだのは、住民の運動の力だと強調し、「大阪に春を迎えるために力を合わせよう」と呼びかけました。



### 維新政治に終止符を

続いて各政党・各界からのあいさつで、平松邦夫さん(元大阪市長)は子どもたちをテストづけにし、テストの結果で校長を評価するなど、維新の教育こわしの実態を告発しました。渡辺義彦さん(自由党府連代表・元衆院議員)は、「府民の命とくらしを守るために、手に手をたずさえて一丸となつて選挙を勝利しよう」と呼びかけました。熊谷貞利さん(大阪カジノに反対する市民の会・元衆院議員)は、維新府政・市政がカジノ誘致へ夢洲のインフラ整備に貴重な税金を投入しようとしていることに触れ、「そのお金を文化や芸術、健全な産業育成に投資すれば、どれだけ経済効果があるか」と批判しました。服部良一さん(社民党府連代表・元衆院議員)は、視察した韓国のカジノでは、入場者の8割がギャンブル依存症になつていると報告し、「カジノを阻止しよう」と訴えました。山下よしきさん(日本共産党参院議員)は、「出直しダブル選」は維新が議会で絶対多数を占めることをねらうもので、「住民不在の究極・最悪の党利党略だ」と述べ、「都構想阻止とカジノストップの大義をかけた、保守の方を含む府民の共同で維新政治に終止符を打とう」と語りました。

### 維新府政11年の教育つぶし

- 府教育予算 2007年6285億円⇒2019年5316億円 約1000億円の削減
- 今後10年間で支援学校の知的障害児童生徒1400人増加⇒「新校整備は必要最小限の600人程度」
- 「教育基本条例」「職員基本条例」などの条例を制定し、教育に介入
- 「国旗国歌条例」で「日の丸・君が代」の強制
- 3年連続定員割れの府立高校の廃校・統廃合
- 高校入試をゆがめる「チャレンジテスト」などで子どもたちはテスト漬け

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



大阪府知事と大阪市長が、それぞれの職を辞任して、知事は大阪市長選、市長は知事選に立候補する意向を表明しました。知事選は21日、市長選は24日に告示され、府会議員・市会議員選挙と同じ4月7日に投票される見通しです。

3月7日、「大阪都」構想の設計図を議論する法定協議会が開催され、今秋に二度目の住民投票を実施するとした案は、維新以外の全会派の反対で否決されました。この結果を受け府知事は、「都」構想が「つぶされかけている」などと述べ、府市両議会でも維新が単独過半数を獲得したいと、知事・市長のダブル選を議会選挙にぶつけてきました。

公職選挙法では、出直し選挙で再選されても元の残任期しか与えない規定が設けられています。これは、現職が相手陣営の準備が整わないうちに自ら退職し、選挙に持ち込もうとする弊害を防ぐための規定です。こうした法の趣旨からすれば、たとえ知事と市長が入れ替わって立候補したとしても、法の抜け穴をくぐろうとする脱法行為だと批判されても仕方ありません。

そもそも「大阪都」構想とは、大阪市をなくしてその権限と財源を大阪府に吸い上げ、府知事がやりたい放題できる体制をつくろうとするものです。その権限と財源を使って「大阪万博」とセツトでカジノを夢洲に誘致し、大型開発が再びすすめられようとしています。夢洲までの地下鉄延伸だけでも約540億円、財源捻出のために福祉・教育・生活関連の予算が圧迫される恐れもあります。

人の不幸で成り立つ賭博頼みの計画が、大阪成長の「起爆剤」になるとは思えません。

# おおさが学びの場交流会



# もっと青春しよう！

## ゆっくり時間をかけて学び、成長する青年たち

2月2日、生野区民センターにて、「第6回おおさが学びの場交流会」が開催されました。

この交流会は、「もっと学びたい！学ばせたい！」という障がいのある青年やその家族のねがいに応え、専攻科や学びの場（福祉事業型専攻科）に通う青年同士の交流や、専攻科や学びの場の実践と発信、親のねがいや運動の交流を目的として開かれました。

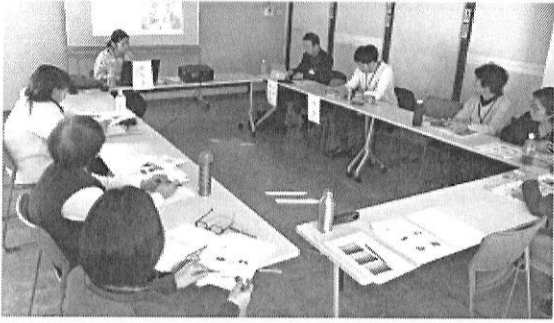
午前の全体会では、青年たちによる舞台発表やファッションショーが行われ、午後は分科会やセミナーに分かれてそれぞれ実践発表や意見交流を通して学び合いました。

### 自分で決める楽しさ、満足感

青年の舞台発表では、府内にある複数の学びの場から青年が集まり、ダンスや

寸劇を披露しました。また、ファッションショーでは、一人ひとりが主役になり、

お気に入りの洋服や小物に身につけ、自分の選曲した曲と共にランウェイを歩いてポーズ決めました。その後のインタビューを含め、自分の好きなものや興味のあることなどをみんなの前で発表し、どんなことでも自分で決めることの楽しさ、満足感が伝わるステージでした。



分科会の様子

### じっくり学び、試行錯誤しながら自分づくりを

午後は、分科会「青年期らしいとりくみ」「家族で語る青年期の学び」で、第2分科会では、二つの実践報告がありました。一つ目は、生活介護事業を使った学びの場である「シユレオーテ」からの「将来ミーツイング（進路学習）」のとりくみでした。全体の実践目標である「自立（自律）する力を育む、自己選択・自己決定、試行錯誤を楽しむ、じっくり待つこと」を軸に、それぞれの歩みにあわせて自ら調べたり体験したりする活動を通して、ゆっくり時間をかけて

自分に向き合い、進路選択をしていった具体的な様子が報告されました。シユレオーテを経験した方は、自分の気持ちを言ってもいいんやなと思えるようになってきたという変化が、仕事の面でも生きていと話されました。二つ目は、自立訓練事業を使った学びの場である「ぼぼろスクエア」からの報告でした。ぼぼろスクエアでは「安心できる場所、自分のことを表現する、自分で考えて決める、自分を知る」ということを大切に、とり

くみをすすめています。その中で、ある学生が大学生との交流を通して成長していった姿を報告されました。それまで自分から何かをしたりまわりと話をしたりすることができなかった彼が、交流で出会った女子大生に恋心を抱き、その気持ちを伝えようと行動を起こしたことで、まわりの学生との交流も深まり、表情豊かにいろいろなことに新しく挑戦していくようになりました。その恋はあきらめることになったのですが、「いい恋をした」と、今は明るく次の

宮城県で開催された集会に参加しました。震災からこれまでの復興の経過について様々なことに触れさせてもらい、現地に行かなければ分からない事が沢山ありました。地震、津波は天災。復興の遅れは人災。物理面だけでなく、見えない部分の被災の問題が気付かれずに深刻化していることが、大きな課題となっていました。これ

## 全国障害児学級・学校交流集会に参加して（感想その5）

フィールドワークに参加しました。あの日、勤務していた建物の一室で、テレビに釘づけになって動けなくなっていたあの土地が、目の前にあり、圧倒的な平地の風景にやはり、しばらく動けなくなりました。そして、やはり自分で見るべきだと思えました。

宮城県で開催された集会に参加しました。震災からこれまでの復興の経過について様々なことに触れさせてもらい、現地に行かなければ分からない事が沢山ありました。地震、津波は天災。復興の遅れは人災。物理面だけでなく、見えない部分の被災の問題が気付かれずに深刻化していることが、大きな課題となっていました。こ

障害児学校の寄宿舎が当時、役に立ってたと、守るべきものと果たすべき責任なきもの

現地に行き、まだまだ学ぶべきこと、感じることもあると思えました。（北視覚支援学校分会 井原規夫）

（北視覚支援学校分会

白木幸治）